

○研究プロジェクト 「空の産業革命～日本と中国の比較～」

開催責任者 経営学部 奥田隆明

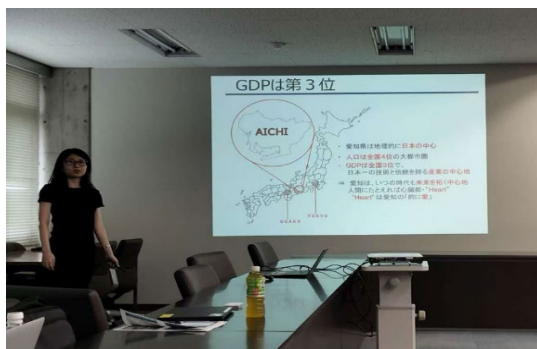


写真1 野村万結夢氏の講演



写真2 何為民氏の講演

研究プロジェクトは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

ドローンやeVTOL（電動垂直離着陸機）等の技術を様々な産業分野で活用する「空の産業革命」をテーマにして、日本と中国の取り組みについて情報交換を行う。また、これを通して双方の地域に必要な社会科学分野の研究課題についても整理する。

◇報告者及び題目

2025年10月10日（金） 開催場所：南山大学J棟J415会議室

趣旨説明：奥田隆明（南山大学経営学部）

題 目：「愛知県の取組について～あいちモビリティイノベーションの紹介～」

講演者：野村万結夢（愛知県次世代モビリティ産業課、写真1）

題 目：「中国における低空経済の取組について～国家・地域の戦略とその実践的な展開～」

講演者：何為民（湛江科技学院経済・金融学部、北部湾経済研究センター長、写真2）

総合討論

◇研究プロジェクトの討論内容

1）趣旨説明：奥田隆明（南山大学経営学部）

ドローンやeVTOL（電動垂直離着陸機）等を様々な産業分野で活用する「空の産業革命」

に関する日本と中国の取組みを理解した上で、今後、双方の地域で必要になる社会科学の研究課題について考える1つの機会にしたいことを説明した。

2) 題 目：「愛知県の取組について～あいちモビリティイノベーションの紹介～」

講演者： 野村万結夢（愛知県次世代モビリティ産業課）

愛知県は世界有数のものづくり県であり、自動車産業や航空宇宙産業の集積地域である。空飛ぶクルマは電気の力で空を飛ぶ新しい航空機であり、多くの社会課題を解決させる可能性を持っている。愛知県にも SkyDrive や Prodrone などの企業があり、2023 年には官民連携プロジェクトを立ち上げた。また、「空と道がつながる愛知モデル 2030」を策定し、ドローンや空飛ぶクルマを使う・作る地域を目指して様々な取組を行っている。その中では、田園や離島でのドローン物流、住宅地でのドローン物流、空飛ぶクルマによる新しい交通社会（図 1）、災害時・平常時でのドローン利活用、都市での次世代空モビリティ利活用（図 2）がイメージされ、既存産業との融合により空モビリティを次世代の基幹産業にしようとする取組みが進められている。また、遊覧飛行の候補地（愛・地球博記念公園エリア、名古屋港エリア、名古屋城エリア）が検討され（図 3）、エアタクシーの離発着場（バーディーポート）の候補地についても調査が進んでいる（図 4）。あわせて空飛ぶクルマの社会受容性についても調査が行われている。



図 1 空飛ぶクルマによる新しい交通社会



図 2 都市での次世代空モビリティ利活用



図 3 遊覧飛行



図 4 エアタクシー

3) 題 目: 「中国における低空経済の取組みについて

～国家・地域の戦略とその実践的な展開～

講演者: 何为民 (湛江科技学院経済・金融学部、北部湾経済研究センター長)

中国では空の産業革命は低空経済として広く認知されているが、日本の同分野の発展状況については理解不足や認識の誤りがあるように感じられる。日本は市場主導型モデルで低空経済の発展を推進している。政府・企業・大学の協働によってその方向性を定め、政策の支援・優遇措置を通して法整備・生産技術向上・産業ニーズへの対応などで顕著な成果を上げている。これに対して、中国の低空経済は急速に発展しているものの (図5、図6)、中核技術、データセキュリティ、一部の応用シナリオの開発においては、日本との間に大きな差が存在している。このため、日本の経験を参考にしながら、低空管理システムの整備、システム開発技術の向上、データセキュリティ管理メカニズムの健全化に着手し、低空経済の高品質な発展を推進することが必要である。



図5 高圧電線の点検



図6 台風後の被災状況の確認

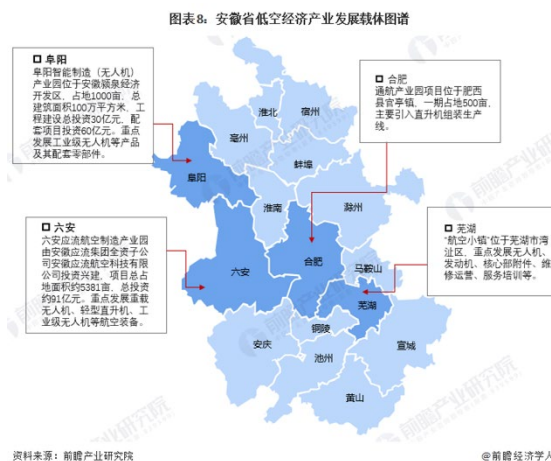


図7 安徽省 (低空経済の集積地)

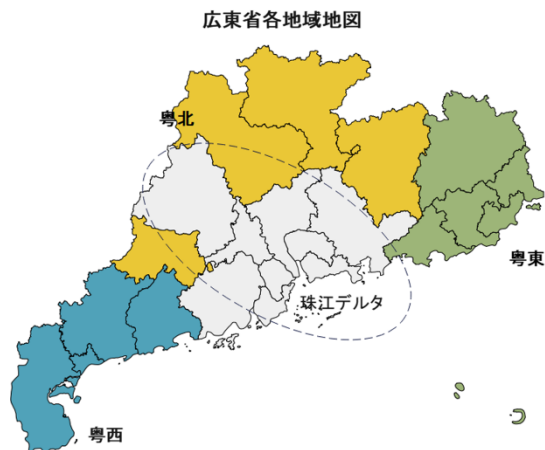


図8 広東省 (深圳市には DJI 本社がある)

4) 総合討論

中国では国家戦略の一つとして低空経済が強力に推進されている（図 7）。また、深圳市（広東省）にはドローンの大手企業 DJI が立地しているだけでなく、広東省の珠江デルタは、愛知県と同様、ものづくりの世界的な集積地の一つになっている（図 8）。空の産業革命（低空経済）に限らず、両地域の産業特性を踏まえた比較研究を進めることにより、社会科学の分野からも産業の発展に貢献することができるものと考えられる。そのためにも、研究者や学生のさらなる交流を進めることが重要であることを確認して、今回の研究会を終了した。

◇研究成果発表

何为民・張力・蔡桂全、「日本低空经济发展与中日合作空间探析（日本の低空経済発展と中日協力の可能性に関する考察）」、現代日本経済、2025 年第 5 号（通巻 263 号）、2025 年 5 月。

張銘・奥田隆明、「地方圏における外国人観光消費の変化について～九州地方を例として」、日本地域学学術発表論文集、Vol.62、2025 年 10 月。

※出席者の所属先・職名は、研究プロジェクト開催当時のものです。